愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	教育実習事前及び事後の指導（幼稚園）		
担当者(Instructors)	松本 亜香里,虎岩 朋加	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

実習事前準備と実習終了後の事後指導として実習経験の省察を行う。それは自己課題を明確にする目的である。事前準備内容は、実習の意義と目的と方法の概要を学ぶ。実習の心構えを身につけ、実習園を研究する。幼児の観察方法、指導案の作成、クラス経営・教師の援助・配慮の方法等を学ぶ。 教育実習の事後指導では教育実習の成果を実習の記録から分析し、前期実習についての省察し自己課題を明確にする。前期の課題解決策の意見を見出し、後期実習の目標を明確化し、計画案を準備する。実習計画に照らして教材研究を行い、指導計画を作成する。自己課題の視点を確認して実習に臨み、後期実習終了後に実習全体を通じた総合的な省察をおこなう。なお、オンデマンド授業となった場合の質問等の受付については、授業内に指示する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	指導案作成や模擬保育を行う演習方式である。ビデオや日誌記録や指導案の具体例を印刷した資料を用いて、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを行う。実習に関わる指導のため、2人教員によるチームティーチングでおこなう。授業のテーマ・内容に即し各回の課題、授業の最後には小レポートを作成する。課題は設定し指定日に確認する。典型的なレポート記載例を紹介し、内容資料を具体的に表示し（質問等によるディスカッションをおこない）各回のテーマを追求修得する方法である。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	教育実習の意義と目的 　実習に必要な書類・事務手続き	・「社会人となる」→「体験から学ぶ」「子ども理解」「援助」の観点 ・実習課題「実習にあたって」、個人票、実習日誌、等の事務手続き	□
第2回	教育実習とは一全体の過程と養成課程での位置づけ 実習の心構えを身につけ、実習園を研究する。	「観察」「参加」「部分実習」3段階の流れを理解する ・実習不安は「子どもと一緒に遊ぶ」保育実習を目指そう	□
第3回	子どもを理解する ・実習記録の意義と書き方	幼児の発達の特徴を、健康やことば、人間関係などの面から理解・記録する。幼児の観察が、指導案作成、クラス経営・教師の援助・配慮の方法等を学ぶための基本であり、子ども理解であることを知る。	□
第4回	幼稚園を理解する ・オリエンテーションの内容　・教育方針、教育内容の理解	・幼稚園教育方針、施設、時間、教育課程などの点からその概要を研究 ・電話のかけ方・オリエンテーション内容と注意・配当年齢と部分実習	□
第5回	幼稚園の特徴と仕事内容	幼稚園の先生の基本の姿を現職の先生方から知ろう聞こう ・公立、私立　・職務内容　・生きがい　・チームワーク　・	□
第6回	教材の研究の確認　（多様な園課題） ・年齢や発達に合わせた教材利用の保育実技 ・園独自による課題曲、季節の歌	子どもの生活や心を豊かにする子ども主体の保育実技 ・教材選択・園長、主任、クラス担任との相談	□
第7回	保育実技を部分実習へ ・指導計画の意義	自由遊びとクラス主活動 ・歌あそび、手遊びと絵本、シアターなど視覚教材の紹介	□
第8回	指導計画の意義を知り一日実習指導案の作成 ・4歳児（3，5歳児の立案想定）	指導計画を書く意義とその内容 ・立案構成を理解する　・年齢発達と展開をグループワークできる	□
第9回	指導計画の作成（１）①一部分	部分実習の指導案を実際に作成する。	□
第10回	指導計画の作成（１）②一部分指導案の検討	作成した指導案をグループワークで相互に検討し合う。	□

第11回	指導計画の作成（２）①ー全日指導案の作成	全日実習の指導案を実際に作成する。	□
第12回	前期実習の省察	前期実習の成果と問題点 ・グループワーク後、報告会　・後期実習の目標を明確化し計画案へ	□
第13回	後期実習目標と計画案 ・自己課題の視点を確認	目標を明確化と計画案準備 ・教材研究を行い作成・指導案をグループワークで相互に検討	□
第14回	事後指導 ・自己課題の明確化	教育実習の成果を実習の記録から分析し、省察・課題の発見 ・実習日誌のまとめ、園評価と自己評価、個別面談による確認	□
第15回	後期実習の課題	後期実習に向けた課題をグループワークで相互に検討する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

毎回の授業の最後に一つまたは二つの課題を出し、小レポートや様式に沿ってまとめて提出する。課題に関連した事後学習(指導案内容、保育教材、ピアノ、手遊び等)をおこなう（2時間）。次回のテーマに関するテキストの該当頁を予告し、事前に読み理解を深める事前学習を促す（2時間）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回の小レポートについて、次回の冒頭で全体的な傾向と、典型的内容を紹介し、討議の材料にする。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			30%	70%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内課題（70）・名札と保育教材・実習園概要（教育目標,園の特徴,クラス数,等）・記録日誌・指導計画案（3例以上）・実習にあたって・個人票・事前訪問報告書・大学提出用：実習を終えて・お礼状・面談（自己課題2つ以上）※観点①表現に具体性があるか ②相手に伝わる文字と適切な文章の表現能力 実技試験（30）・電話,事前訪問の応答・指導案作成・模擬保育（導入展開結び）

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	小櫃智子・守 巧・佐藤 恵・小山朝子著『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社	978-4907270193
2	小櫃智子 編著『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社	978-4907270155
3	文部科学省『幼稚園教育要領解説』	
4	文部科学省『幼稚園教育要領』	
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	映像で学ぶDVD「指導案」「日誌」の書き方	
2	流れがわかる幼稚園・保育所実習ー発達年齢、季節や場所に合った指導案を考えよう	
3		

4		
5		